

感染症対策・



調査センター



2025(令和7)年5月1日

第 12 号

編集
発行

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)



YouTube

令和6年度のマダニ生息調査結果について

感染症対策・調査センターでは、私たちに病気を媒介したり危害を加えたりする衛生害虫等の調査を行っています。今号では、昨年度実施したマダニと蚊の生息調査結果の一部をご紹介します。

マダニの生息調査

マダニは、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱などの感染症を媒介し、吸血する際に病原体をヒトなどにうつすことがあります。マダニはイノシシやシカなどの野生生物に取付いて行動範囲を広げ、草むらの葉裏や積み重なった落ち葉の中などに隠れ、近づいてきた人間を含む生物に取付き刺咬・吸血します。

当センターでは市内でマダニの生息調査を継続して実施しています。昨年度に毎月6地点で調査を行ったところ、8種類のマダニが捕獲され、ヒトへの吸血性が強く、SFTSを媒介することがあるタカサゴキララマダニも捕獲されました。春から秋にかけては、マダニによる刺傷被害が増える季節です。キャンプや山歩きなど野外で活動するときは、肌の露出を少なくし、適宜虫よけ剤を使用するなどしてマダニに刺されないように気をつけましょう。



フタトゲチマダニ（左上）、ヤマアラシマダニ（右上）、タカサゴキララマダニ（下）の成虫

マダニメモ

マダニは、産卵のため吸血する他に幼虫から若虫、成虫と成長するときにも吸血します。



産卵したマダニ

マダニ捕獲調査結果（市内6地点の成虫・若虫の捕獲数）

調査月 種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	人への 吸血性	病気を媒介 する可能性	媒介する 主な感染症	主に吸血す る生物
タカサゴ キララマダニ	4	6	0	3	1	3	3	0	0	0	0	5	25	◎ 高い	○ 有る	SFTS	イノシシ
キチマダニ	22	44	7	5	0	2	14	24	32	25	23	43	251	△ 高くない	△ あまりない	—	鳥類、 ほ乳類
ヤマアラシ チマダニ	78	27	18	19	16	11	0	0	0	0	0	0	169	△ 高くない	○ 有る	日本紅斑熱	イノシシ
フタトゲ チマダニ	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	○ やや高い	○ 有る	SFTS 日本紅斑熱	ニホンジカ
アカコッコ マダニ	14	37	0	0	0	0	0	3	8	12	17	45	136	× 低い	× ほとんどない	—	鳥類
その他	2	0	4	1	0	1	1	1	4	2	0	4	22	—	—	—	—

令和6年度の蚊生息調査結果について

蚊はデング熱などの感染症を媒介し、ヒトを吸血する際に病原体をうつします。当センターでは、毎年独自に蚊の生息調査を実施しているほか、本市の他の部署と共同で蚊の生息状況とウイルス保有状況の調査を市内8地点で実施しています。

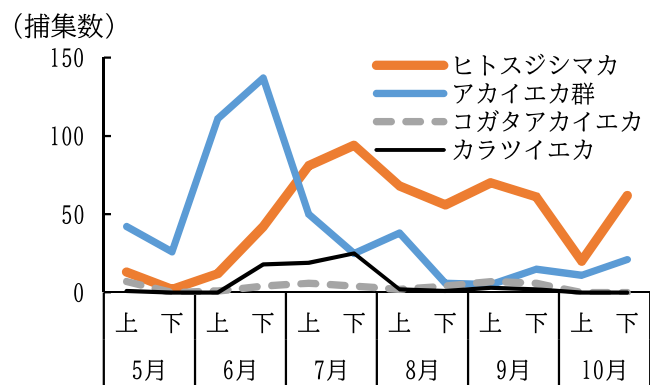
蚊の生息調査

調査地点のうち6地点ではCO₂トラップ法で月2回24時間調査を実施しています。令和6年度は11種類の蚊が捕集され、ヒトスジシマカとアカイエカ群がその内の約9割を占めました。

アカイエカ群の捕集のピークは6月で、8月下旬以降はあまり捕集されませんでした。ヒトへの嗜好性が強いヒトスジシマカは7月から秋まで多く捕集されました。



ヒトスジシマカ



CO₂トラップ法による調査結果(メスの捕集上位4種)

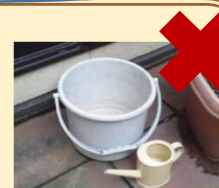
蚊のウイルス保有調査

ウイルス検査は衛生研究所で実施しています。令和6年度は、捕集された蚊からウイルスは検出されませんでした。なお、このウイルス検査は平成17年度から実施していますが、これまでウイルスが検出されたことはありません。



6月と7月は蚊防除運動期間です！

蚊は成虫になると駆除が難しいので、幼虫(ボウフラ)対策が重要です。幼虫を発生させない環境づくりを心がけましょう。



雨ざらしの容器などに幼虫は発生します。

センターからのお知らせ

消防局との相互研修を実施しました

センターでは、消防局救急課と年1回定期的に相互研修を実施しています。昨年度はこの2月に行い、センターから消防局へは、感染予防対策として、手洗いチェッカーによる手洗い後の手指の衛生状況の確認とマスクのフィットテスターによる着用マスクの漏れ率の測定をしました。また、消防局からセンターへは、患者移送時に用いるストレッチャーの安全操作と救急車両の安全走行についての実技講習がありました。

今後も、センターでは消防局と連携して安全対策に係る情報などを共有し、感染症患者の安全な移送業務に活かしていきます。



手洗い後の汚れのチェック(左)とマスクの漏れ理知の測定(右)

『感染症対策・調査センターだより』は、名古屋市公式ウェブサイトで創刊号からご覧いただけます。「感染症対策・調査センター」で検索していただくか、右のQRコードをご利用ください。

